

第 38 回オンコロジーセミナー プログラム (案)

メインテーマ：「がん医療に向き合う力 ～治療を知り、語り、ともに続ける～」

会期：2025 年 11 月 15 日 (土) 10:00～16:30 (予定)

会場：WEB 開催 (ライブ配信)

担当役員：加藤 晃史 (都立駒込病院 臨床研究・治験センター)

東 加奈子 (東京医科大学病院 薬剤部)

中村 千里 (聖マリアンナ医科大学病院)

参加費：会員 3,000 円、非会員 7,000 円 ※医療従事者のみを対象

<敬称略>

10:00 ～ 10:05	(5)	開会の挨拶	がん医療研修機構 第 38 回 担当役員
10:05 ～ 11:05	(60)	I 特別セミナー① 「EGFR-TKI の副作用マネジメントと SDM～ タグリツソを中心に～」 共催：アストラゼネカ株式会社	座長：橋口 宏司 (横浜南共済病院 薬剤科) 演者：守田 亮 (秋田厚生医療センター 呼吸器内科)
11:05 ～ 11:15	(10)	休憩	
11:15 ～ 12:15	(60)	II 特別セミナー② 「肺癌診療における集学的治療」 共催：日本化薬株式会社	座長：東 加奈子 (東京医科大学病院 薬剤部) 演者：高橋 聡 (東京医科大学病院 呼吸器・甲状腺外科)
12:15 ～ 13:15	(60)	休憩	
13:15 ～ 16:25	(180)	III パネルディスカッション 「医療者が“続けられる”ために －バーンアウトを防ぐ現場の工夫」 ○ イントロダクション ① 基調講演 (60 分) ② 薬剤師の立場から (30 分) ③ 看護師の立場から (30 分) 休憩・転換 (10 分) ④ 総合討論 (60 分)	座長：加藤 晃史 (都立駒込病院 臨床研究・治験センター) 中村 千里 (聖マリアンナ医科大学病院) 演者： ① 鈴木 裕介 (秋葉原内科 save クリニック) ② 青山 剛 (がん研究会有明病院 薬剤部) ③ 入江 佳子 (虎の門病院 がん看護専門看護師)
16:25 ～ 16:30	(5)	閉会の挨拶	がん医療研修機構 理事長 加藤 晃史

主催：NPO 法人 がん医療研修機構 <https://jocot.org/>

【問い合わせ先】

NPO 法人 がん医療研修機構 事務局

〒650-0031 神戸市中央区東町 123-1 貿易ビル 4 階 (株)コンファラボ内

TEL：050-5527-7192 E-Mail：office@jocot.jp

第 38 回オンコロジーセミナー 企画趣旨

【セミナー開催日時】

主催：NPO 法人 がん医療研修機構

日時：2025 年 11 月 15 日（土）10:00～16:30

会場：オンライン開催（ライブ配信）

当番理事： 加藤 晃史（都立駒込病院 臨床研究・治験センター）

東 加奈子（東京医科大学病院 薬剤部）

中村 千里（聖マリアンナ医科大学病院）

◎メインテーマ

「がん医療に向き合う力 ～治療を知り、語り、ともに続ける～」

I 特別セミナー① 共催：アストラゼネカ株式会社（10:05～11:05）

テーマ：「EGFR-TKI の副作用マネジメントと SDM～タグリッソを中心に～」

座長：橋口 宏司（横浜南共済病院 薬剤科）

演者：守田 亮（秋田厚生医療センター 呼吸器内科）

II 特別セミナー② 共催：日本化薬株式会社（11:15～12:15）

テーマ：「肺癌診療における集学的治療」

座長：東 加奈子（東京医科大学病院 薬剤部）

演者：高橋 聡（東京医科大学病院 呼吸器・甲状腺外科）

III パネルディスカッション（13:15～16:25）

テーマ：「医療者が“続けられる”ために –バーンアウトを防ぐ現場の工夫」

座長： 加藤 晃史（都立駒込病院 臨床研究・治験センター）

中村 千里（聖マリアンナ医科大学病院）

【演題概要】

1) 基調講演（60 分）

演者：鈴木 裕介 先生（秋葉原内科 save クリニック）

2) 実践報告：薬剤師の立場から（30 分）

演者：青山 剛 先生（がん研究会有明病院 薬剤部）

3) 実践報告：看護師の立場から（30 分）

演者：入江 佳子 先生（虎の門病院 がん看護専門看護師）

休憩・転換（10 分）

4) 総合討論（60 分）

【企画趣旨・概要】

今回のオンコロジーセミナーでは、「がん医療に向き合う力 ～治療を知り、語り、ともに続ける～」をテーマとして、特別講演として肺がんに対する薬物療法ならびにその副作用対策など患者さんに良い治療を受けていただくためにメディカルスタッフが身に付けたい知識やスキルについて講演を行います。一方、毎年がん罹患数が増加し、薬物療法などさまざまな新しい治療が開発され、治療の個別化が進む中で、がん診療に関わる医療スタッフの心理的負荷も増大しています。そこで、パネルディスカッションとして、「医療者が続けられるために～バーンアウトを防ぐ現場の工夫」と題して、仲間であるスタッフを支える工夫について複数の職種の視点で意見交換を行います。

以上